midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

５月号の１枚：皮をはいだばかりのヒノキ材

「山の日」と森と木材

緑のダム北相模に集う私たちは、このことの価値を色んな角度から考え、触れて、利用し、共存する道を学べるいい環境にいる

8月11日は「山の日」です。今年から本格的に国民の祝日となりました。日本山岳会、林野庁、山岳を有する自治体など多方面の動きが活発になっています。森林・林業に携わる人々や山村に住む人の間では、「ヤマ」は「森林」と同義ともいえるものです。その山＝自然は、1960年代前半までは人々の暮らしに直結する資源の提供の場であり、子供たちの遊ぶ場であり教育の場でした。自然の仕組みに潜む情報は科学技術発達のための情報の宝庫であり教師です。土壌の中の微生物を研究して画期的薬物を見つけ出し作り出して今回のノーベル生理学・医学賞受賞に輝いた大村智博士を思い出して下さい。

また、2020年オリンピックの新国立競技場が木材を多用して作ることになったこと、その設計をした隈健吾氏が木材には多様な未来があると言っていることの意味を知ってほしいと思います。その本質は、鉄やコンクリート、プラスチックなどエネルギー多用型資材に対して、地球温暖化を緩和する、エネルギー節約のできる自然循環の輪の中にある資材・資源だということです。

緑のダム北相模に集う私たちは、このことの価値を色んな角度から考え、触れて、利用し、共存する道を学べるいい環境にいると思います。もちろん、このことを享受するためには安全が大事で怪我などしないことが第一です。でも、少しくらいの失敗はかえってその後に来たかもしれない大事故を回避する上で大事な経験ですから、ひるまず怖じ気ずに「山の日」を、普段のヤマでの日々とともに楽しむことにしましょう。

桜井　尚武（大日本山林会）

今月の定例活動

2016.05

5月 1日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上
知足の森/若者の森づくり
いずれも弁当持参。参加費：４００円
5月15日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]相模湖嵐山の森

4月17日（第一日曜日）

ヤマブキやニリンソウ、フデリンドウ、ヨゴレネコノメなどの花々が今を盛りと咲いている。嵐山が一年でもっとも輝く季節の到来だ。参加者４５名。花々の開花に合わせたようにお花畑班は先月に引き続きモッコウバラのアーチ修復に取り組んでいる。来月にはきっと見事な花景色が見られることだろう。ヤーコンの植え付けも行った模様だが、この野菜、いったいどうやって食べたらいいの？

私はフォレストノバの新人を含めたメンバーを森林に案内。森林インストラクターらしくモミの木の生態的地位などを説明しながらの散策であったが、途中突風が吹き始めたため山頂へ行くことは諦め、「なみすけの森」や「望星の森」などを回ることに。その間、森林整備班は材仮置き場の邪魔になるヒノキを伐倒。伐り倒したばかりの材を皮むきした姿は美しいのひとことに尽きる。川田会員はチェーンソーの点検に専心。このような人が会の活動を支えているのだ。

午後。フォレストノバはのんびりと仲よく山菜採り。作業基地周辺で摘んでいるカンゾウは時期的に少し遅いので、その後ノバの森へと移動した。森林整備班は先月からの課題である看板建て替え作業に取り掛かり、見事完成。「嵐山の森」の文字はこれまでの看板のものを再利用したものだが、なかなか立派な出来栄えである。宮村会員率いる地球環境部は雪でやられた倒木や伐った材の処理とともにスズメバチのトラップを作成。越冬から目覚めた女王バチを捕えるため、清酒に砂糖、酢を加えた液体を２ℓのペットボトルに流し入れる作業である。毎年のことながら中学生たちの尽力には頭が下がる。

本日のハイライトは終礼時。何と共にフォレストノバOBである神宮さんと斎藤君が入籍したことを皆に披露。初々しいカップルの誕生である。基地にある神宮さんがつくり、斎藤君が設置した「ムササビの家」は壊れてしまったが、お二人で築く家庭はそうなることはないだろう。末永くお幸せに。

内野　郁夫（本会、理事）

４月の小原本陣の森定例活動、知足の森定例活動は活動日が相模原市民桜まつりと重なったため、活動を行いませんでした。

[定例活動]相模原市民桜まつりに参加しました

4月3日（第一日曜日）

４月２日、３日に「相模原市民桜まつり」が開催された。緑のダムが運営委託された「環境ゾーン」は「相模原の環境を守ろう」のスローガンで１４団体が参加しました。

各団体が日頃の環境活動のかかわりを広報するとともに、体験イベント、環境グッズの販売などを行いました。

生活の中に「木」を積極的に取り入れ、「町の中の森づくり」に取り組む「こどもりクラブ」や、普段は人知れず山奥で育林・造林作業をしている「木林士」の丸太切り体験、ミニＳＬ、中高生の地球環境部は、上智大学でのイベントでつくる万里の長城の試作を行った積み木広場にもたくさんの子どもが木の感触を楽しんでいました。他にも、「フォレストノバ」「一般社団法人さがみ湖森･モノづくり研究所」「トレカーサ工事」「ワコーグリーン」「Stage21」「NPO全国森林インストラクター神奈川会」「一般社団法人自然流の会」「NPO自遊クラブ」に加え相模原市商業観光課からはゴミ収集車、ゴミ分別体験ゲームの出展があり、来場者に身近な生活と環境との関係を感じてもらえました。「環境ゾーン」の来場者は、６～7千人でした。

また、Forest nova、地球環境部の感想も続けてご紹介します。

川田　浩（本会、理事）

4月に入りすっかり春らしい陽気となりました。皆様お変わりございませんか。4月2日と3日に行われた相模原市民桜まつりが開催され、私達Forest Nova☆もブースの出展とまつりのお手伝いとして参加しました。

去年もこのお祭りに参加し木のMy箸作りを行いましたが、今年は人数の関係上木工は行わず、Forest　Nova☆の説明と活動内容などについてのパネルやアルバムを展示するブースを行いました。

Forest　Nova☆の参加人数が少なかったためこのようなブースになりましたが、パネルなどをじっくり見てくれる方も多く、普段のブースよりも一人一人にしっかりと私たちについて伝えることが出来たのではないかと思いました。その中でも、小学生の男の子が一人とても興味を持ってくれて、熱心に聞いてくれたのでこちらも気分が高揚してしまいました。また少ない人数でもブースがまわすことができため、去年はあまりできなかったお祭りをまわる事も少しは出来たのではないかと思います。

お手伝いとしてはテントの搬入と組立て、終了後の片付け、相模湖ふるさと鉄道愛好会さんのSLの運営を行いました。テントの搬入は部品が多く重いためとても大変で、中でもテントを固定するための一個20キロの重りが、重さも数もずば抜けて多かったので一番大変でした。また、相模湖ふるさと鉄道愛好会さんのSLは盛況で、朝一番を除いてずっと行列が出来ていました。テントの解体は最初こそ手間取ってしまいましたが、次第に慣れてきて最後にはかなり早くできるようになったと思います。

今回は人数的にギリギリでブースと手伝いで一杯一杯だったのですが、今年のこれからのイベントはお客さんとはもちろんですが、

一緒に参加している他の団体さんとも親しくなれるようにイベント自体をまわる時間を増やしていきたいと思っています。また、自分たちのブースの質を高めるためにも、人数を増やしていくことも全力で行っていきたいと思います。

中嶋　竜太（Forest Nova）

今回、相模原のイベントで積み木を積んだ。今回のテーマは万里の長城だった。５月に上智大学で中国留学生の人たちと一緒に本番がある。その練習として初めて万里の長城を作ることにした。
万里の長城はとにかく長いので、かなり場所をとった。ブルーシートをしいてその上でやることにし、空いたスペースでは子どもたちが自由に積み木遊びをしてもらった。子どもはたくさんいてかなり好評でそれぞれ大作を作っていた。私たちは４グループにわけ、それぞれが考えたパターンで組んでいった。アンコールワットなどと比べて単調な作業が続き、地道に積んでいくしかないと思った。さらに、積み終わって部分を小さな子が壊してしまったり、やっと終わりそうなところで雨が降り出したりと色々大変な１日だった。今回でだいたいの雰囲気がつかめたので、上智大学では完成させたい。

中学３年女子（地球環境部）

[連載]
相模湖・若者の森づくりから

桜が散り若葉が芽吹いてくる今日この頃、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか

さて、新たな出会いということで4月上旬に新しく入学した１年生を対象に新入生オリエンテーションを開催しました。新入生に対する勧誘活動は麻布大学の入学式の時から行っており、新入生に対しForest Nova☆のチラシを配りました。また、4月9日には麻布大学のサークル相談会に出席し、Forest Nova☆の活動などを話しました。その後、4月11日12日15日とForest Nova☆のオリエンテーションを開催しました。その内容は、メンバーの自己紹介、Forest Nova☆の説明、ストラップづくりを行いました。まずは自己紹介では私たちメンバーの趣味やどんなことが好きかなどを発表しがてら自己紹介などを行いました。そのあとの説明では、Forest Nova☆のことや定例活動のことやイベントでの活動のことなどを1年生に向けて発表をしました。また、ストラップづくりでは1年生達にそれぞれ端材を選んでもらい、それをやすりでこすりつるつるにした所で、電熱ペンなどで装飾を施し完成させていました。Forest Nova☆のオリエンテーションに来る人数こそ総計4人と少なかったもののオリエンテーションに来てくれた1年生達の表情などはとても明るかったです。

また、オリエンテーションに来てくれた1年生をForest Nova☆の定例活動に招待したところ生憎1年生は来られませんでした。しかし新入生はいなかったもののForest Nova☆に入りたいという在校生が来てくれたので森の説明や植物の説明を行いました。また森の説明の途中には間伐を見学することができました。B地点の説明をした後、頂上へ向かう予定だったのですが、生憎の天気のため途中で引き返し、道中の植物を説明しながら拠点のほうへと戻りました。午後には天気も回復したのでForest Nova☆に来てくださった方と一緒に山菜取りを行いました。特に多くとれたのは拠点近くに生えていたヤブカンゾウで袋いっぱいになるまで詰めて持って帰っていました。

出会いの季節ということでForest Nova☆にも新入生の顔が見えてきました。また、元々のメンバーも進級し、より一層先輩としての緊張も芽生えてきたところなので、これを機に私達先輩メンバーが１年生お手本となるように、また、Forest Nova☆に更なるメンバーを増やせるようこれからもがんばってまいりたいと思います

櫻井　友樹（Forest Nova）

[コラム]
「森の話」第11回
樹木と草本

植物は樹木と草本に分けられています。このことは自明のようなので疑問を抱くひとはあまりいません。しかし、タケやヤシは樹木図鑑に登場しはするものの、どちらともいえない特徴を具えています。そもそも両者はいったい何が違うのでしょう。

「樹木とは形成層を持つ永年植物。老齢衰退期までは年々、高く太くなり、高木性の樹種では数百年の寿命を持つものが多い。冬期にも地上部は枯れず、従って、冬芽の位置が地面より高いところにある。発芽から開花まで少なくとも３年以上はかかる」

樹木の定義です。ちょっと硬い表現ですが、樹木の特徴をよく示していると思います。草本が１年のうちの主に冬に地上部が枯れるのは分かりますが、さらなるキーワードは「形成層」。細胞分裂組織である形成層は樹木のもつ最大の特徴で、これにより年々太くなっていきます。幹の外縁近く、樹体の全面を鞘のような形で包みます。その内側には材組織を、外側には光合成でつくられた養分を輸送する師部組織を送り込みます。材組織は年月が経つと生命活動を停止し、死んだ細胞が蓄積します。これが心材と呼ばれ、樹体を支える役割を果たします。私たちが材として利用するのは主にこの部分。人のような動物と違い、樹木は生きている細胞と死んだ細胞が同居している不思議な生き物といってよいのかも知れません。

では、樹木と草とはどちらが先にこの地上に現れたのでしょうか。古生代シルル紀に誕生したシダ植物は草本ですが、種子ではなく胞子で繁殖します。種子植物というくくりでいけば実は樹木の方が先。意外なようですが、シダ植物から進化した裸子植物（ソテツ、イチョウ、マツ、スギ、ヒノキなど）がすべて樹木であることがそのことを証明します。

草本はもっと時代が下った新生代に登場しました。この頃、地球環境の寒冷化、乾燥化が進んだといわれます。そこで植物は個体の寿命を長くするよりも、短いサイクルで多くの子孫を残す方向を選びました。その方が遺伝情報を早く伝達でき、環境の変化に適応しやすいからでしょう。種子は発芽に不都合なときには地中でじっと休眠しています。条件さえ整えば芽生えてきますが、野菜のように一斉に発芽することはなく、その生育はばらばら。日照り、低温など、不測の事態により絶滅することを防ぐためです。畑の雑草がとってもとってもなくならないのはこのため。植物のしたたかさが窺えます。

さて、タケは年々枝分かれします。この点は樹木のようですが、稈（樹木の幹に当たります）の太さはタケノコの時期からあまり変わらないまま。パイプのように中空、節を持つことで体を支えます。一方、ヤシも年々の肥大生長はしないので、樹木のような材をつくることはありません。その代わり高い体を支えるために不定根という組織を根元にびっしりと集めます。ヤシは草本になってから再び樹木になろうと頑張っているように思えます。

タケやヤシ、そして木生シダはどうやら樹木でもなければ草本でもないようです。ある植物学者はいっています。「これらはできれば樹木に入れないでほしい」と。人には何かと区分けしないと気がすまない性分がありますが、自然界はそう簡単に割り切れるものではないようです。

内野郁夫（本会、理事）

[報告１]
Forest Nova ☆ OBOG会（仮）

学生団体Forest Nova ☆は今冬で立ち上げ10年目になります。そのOBOGが集まり、久しぶりに嵐山に足を踏み入れ、6名で活動に参加しました。

メンバーの中で結婚する人間もいれば、地方から戻ってきてこちらで林業に携わる人間もいる。また、森林に従事しない人間もいる。今では学生よりも社会人となっているメンバーが多くなってきています。

お互いの立場が異なっても、森林について何かアプローチできないか？そんなことができるようになれたらいいなと話し合うようになっています。学生時代の仲間ともう一度活動したい。森林の利用価値を高める森づくりをしたい。多様な森の環境と人の暮らしの豊かさの両立の実現。等々。学生の時とは別の視点を持ったそれぞれが力を出し合って新しい森林保全を、急がず休まずぼちぼちとこれから取り組んでいきたいと考えています。

最後に、４月３日相模原市の青根小学校が火事となり全焼しました。相模原市の唯一の木造校舎で市の有形文化財にも登録されていました。Forest Nova ☆としては学校林の展望台設置の手伝いをさせていただいた経緯があります。今後の復興を願いたいと思います。

滝澤　康至（Forest Nova OB）

[報告２]
幼稚園のイベントに積み木を貸し出しています

相模原市内の幼稚園でのイベントに本会の積み木を活用していただきました。イベントでは高さ比べ大会を行い、かなり盛り上がりました。高くなると風の影響を受けるので、風を考えていく必要があります。制限時間の15分の間に高く積めても最後に倒れてしまったり、はじめからゆっくりと堅牢に作ったほうが勝ったりとドラマがありました。今後も市内の子どもたちのイベントに活用していただく予定です。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１８年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
Facebook：http://www.facebook.com/658588827578641
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版、２２世紀やま・もり再生ネット